

自分なりに納得し、責任を持てる日々の行動でありたい

ある方からの推薦ということで、ある学校から半期の講義の依頼があった。単発であれば、迷うことなく「ハイ」の一言であったし、また、ご紹介・推薦いただいた上での話なので「ハイ、よろしく」と云えば済むことであったが、先日学校側に面接をお願いした。

長期間の講義であれば、私の話はしばしば横道にそれること多く、後々、紹介・推薦の方にも学校にも迷惑をかけたくないので、まず学校側に自分を知っていただいた上での依頼であれば、お受けしようと思った次第（こうした機会を与えて下さり、ご紹介いただいた方には、たいへん失礼なことになるかなと思ったが……）。

「同じ学年の二クラスに、同じ科目の講義を毎週2コマを」ということであったが、私は教えるというより、福祉方面を目指す若者に、何かを伝えたい、語りたいというのが話をする時のモットーだけに、二クラスに同じ内容を同じように話す器用さもないので、二クラス合同の授業形態をお願いした。

面接を申し入れたこと、更に授業形態まで変更をお願いしたことといい、ほとほとこの自分の厚かましさと自己主張を持てあましている。私らしいと云えばそうとも云えるが、「おまえ！ちょっとバカでないか！」と我がことながら、そう思ってしまう（ただ、自分なりに納得し、責任を持てる日々の行動でありたいとは願っている。）

勤務中は、「国療の重症児バカ」と名誉（？）な称号をいただいたが、さて、リタイア後のこのバカさかげんは、周りから何と揶揄されているのであろうか？ちょこっと反省の日々である（「さて、さて、阿部のこと、この反省がいつまで続くことやら……」と、陰口をたたくなかれ！見守り賜う！）。

（2003年03月19日 記）